

# ミニブルーク

【VOL.56】

監修・協力 ● 丸山 薫 漫画 ● 石川正順

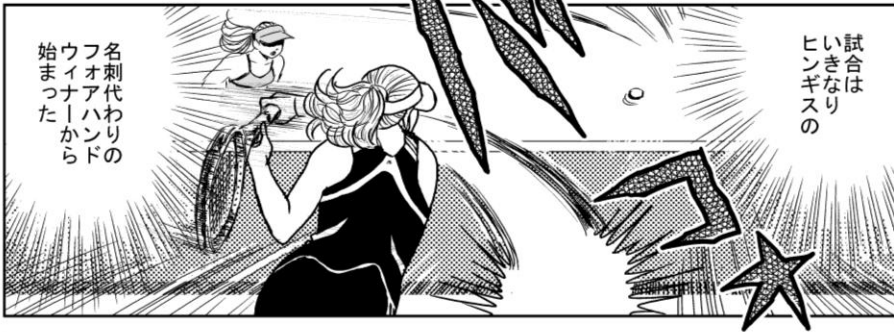


ヒンギスは直前の全豪オープンでもいいプレーを見せており初めて対戦するシャラポワが

どんなプレーをしてくるのかそれに自分ができるように戦っていかうかと楽しみにしていた

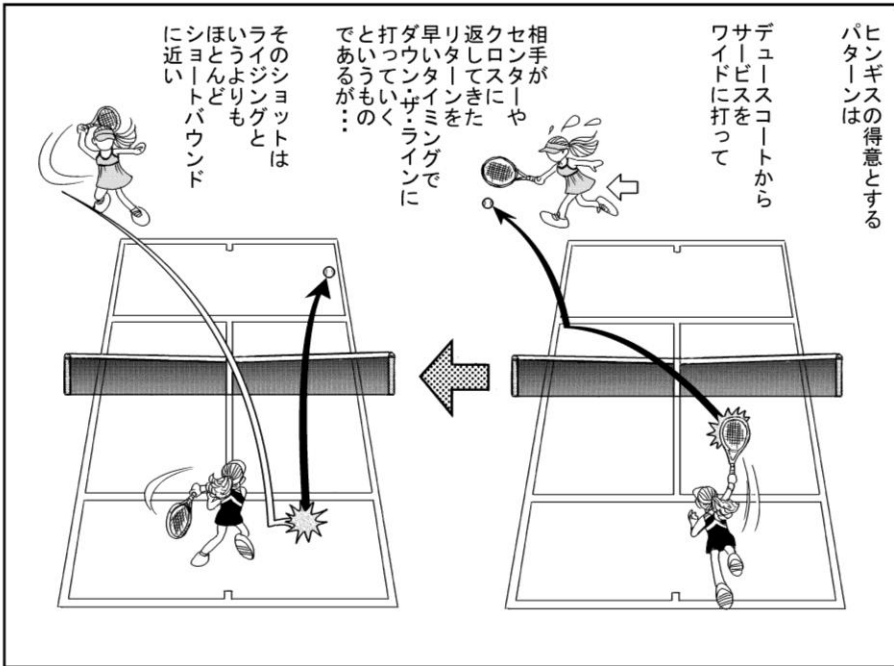
対するシャラポワはランキング3位チャンピオン

という立場から『負けられない』という意識がとて高かったと思われる



試合はいきなりヒンギスの

名刺代わりのフォアハンドから始まった



ヒンギスの得意とするパターンは

デュースコートからサーブを打ってワイドに打って

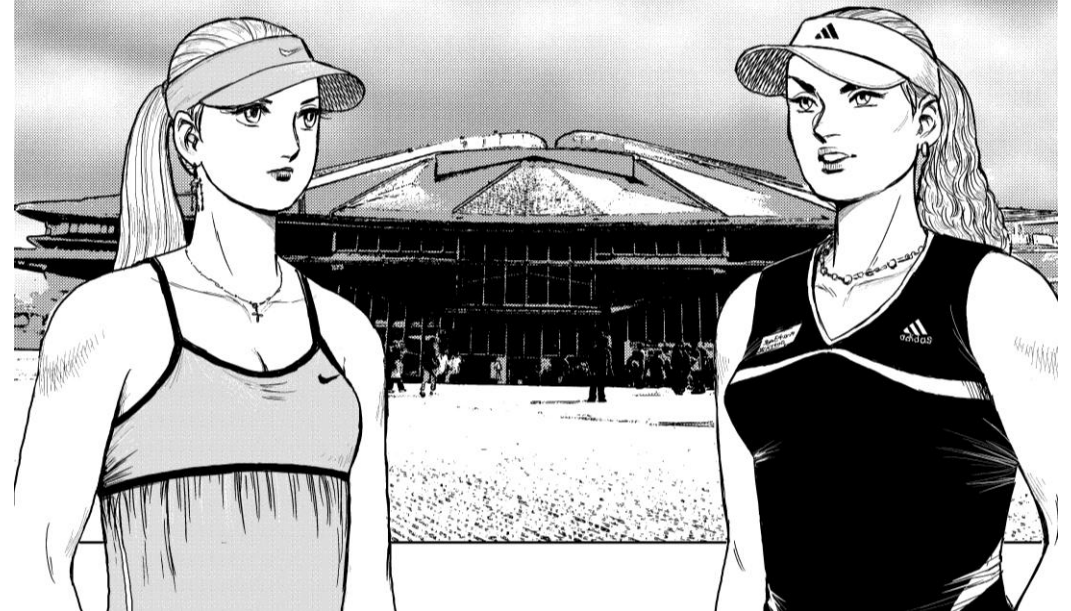
相手がセロスターやクロスターに返してきいたら早いタイミングでダウンザラインに打っていくのであるが

そのショットはライジングとほとんど同じに近しい

2006年2月4日  
東レPPO準決勝

マリア・シャラポワ  
(ロシア)

VS. マルチナ・ヒンギス  
(スイス)



ライジングと言えは  
伊達公子を思い出される  
皆さんも多いかと思う



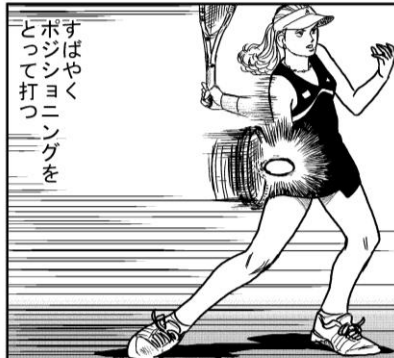
前ページのように  
ワイドにサーブを入れたあと

しかし  
伊達が  
足の速さを  
生かして



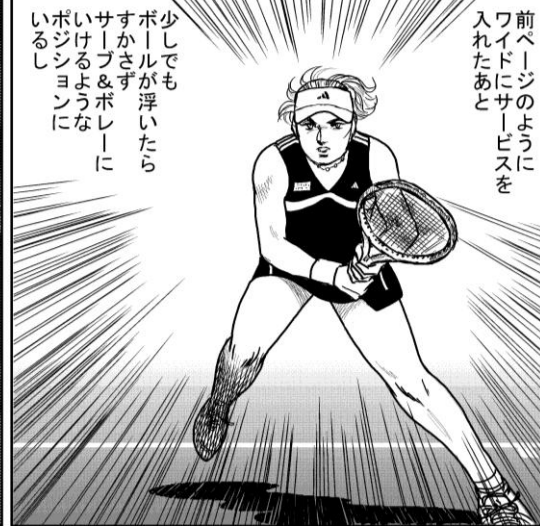
早くボールに  
追いつき  
早いタイミングで  
打つのに対し

自分が打った  
ボールが  
どう返ってくるか  
を予測し



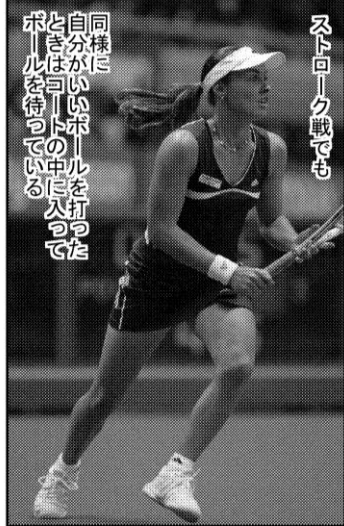
すばやく  
ポジションを  
とって打つ

少しでも  
ボールが浮いたら  
すかさず  
サーブ&ボレーに  
いけるような  
ポジションに  
いるし



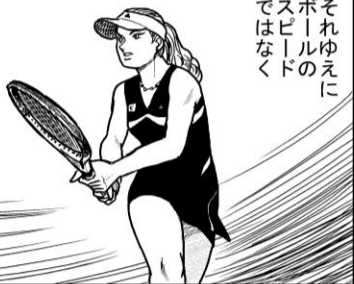
ストローク戦でも

同様に  
自分がいいボールを打つた  
ときはコートの中に入って  
ボールを待っている



それゆえに  
ボールの  
スピード  
ではなく

展開で  
相手を  
振り回すこと  
ができるのである



加えて  
東レPPOの  
「サーブ  
スパックス  
コートに似た  
は芝生コート  
ライジングに  
非常に適して  
いると言えよう



自分の強打が  
さらに早い  
返ってくる  
展開の速さに

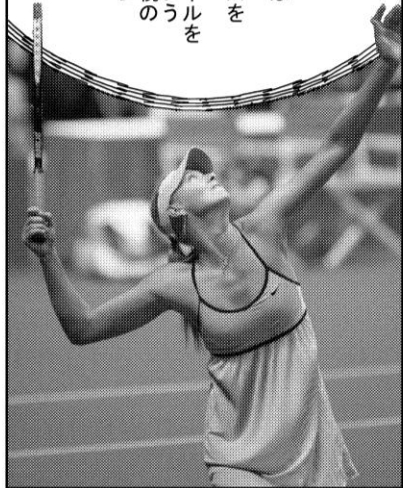


なかなか  
思いどおりの  
試合運びが  
できず  
戸惑い気味

しかもヒンジスの  
「シヤラポワ封じ」  
作戦は  
それだけでは  
なかった



一方  
シヤラポワは  
いいサーブを  
入れて  
チャンスボールを  
強打する  
攻撃パターン  
だが...



第1セット中盤から  
シヤラポワが強打すると  
ムーンボールで対抗する  
ようになる





ヒンギスは  
またワイドに  
攻撃を始める



第2セットに入ると



以前のヒンギスは  
こういう場面では  
フォアハンドサーブの  
確率を上げて  
確実にポイントを取  
取ったが  
常だったが  
サーブの  
スピードが  
増して  
新たな武器が  
備わったわけである



緩急の差を  
つけるという  
ヒンギスらしい  
組み立てである

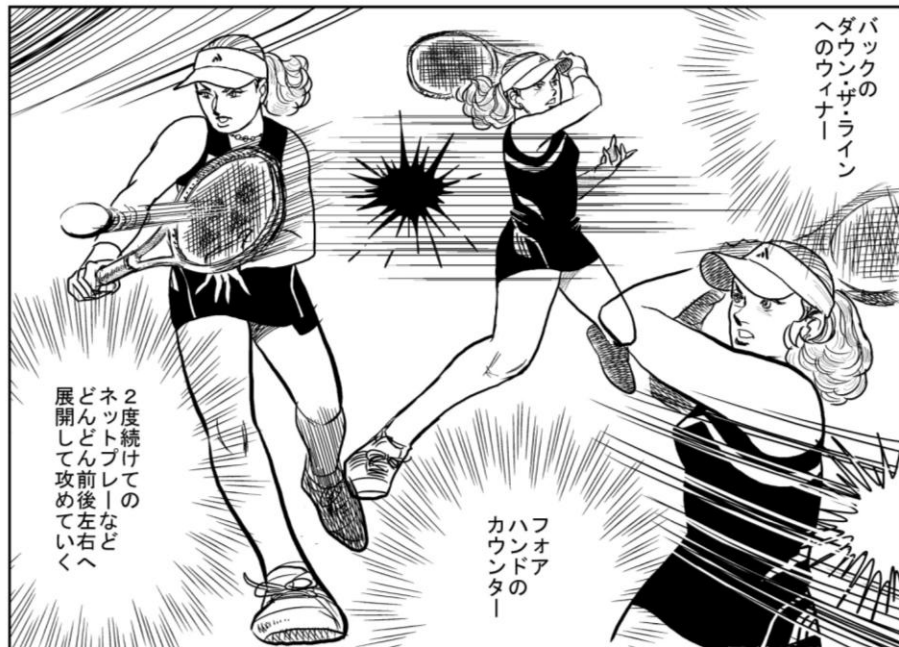


いくら速いテンプでも  
合ってくる  
合ってくる  
合ってくる  
そうすればスピードのある  
シャラポワが  
勢いづく



さらに4-3  
30-30となった  
ところでヒンギスは  
センターにボールを  
集め...

2005年の  
USオープンで  
クリスタルズが  
使った戦法を使って  
シャラポワの  
ミス誘う



バックの  
ダウンザライン  
へのウイナー

フォアの  
ハンドの  
カウンター

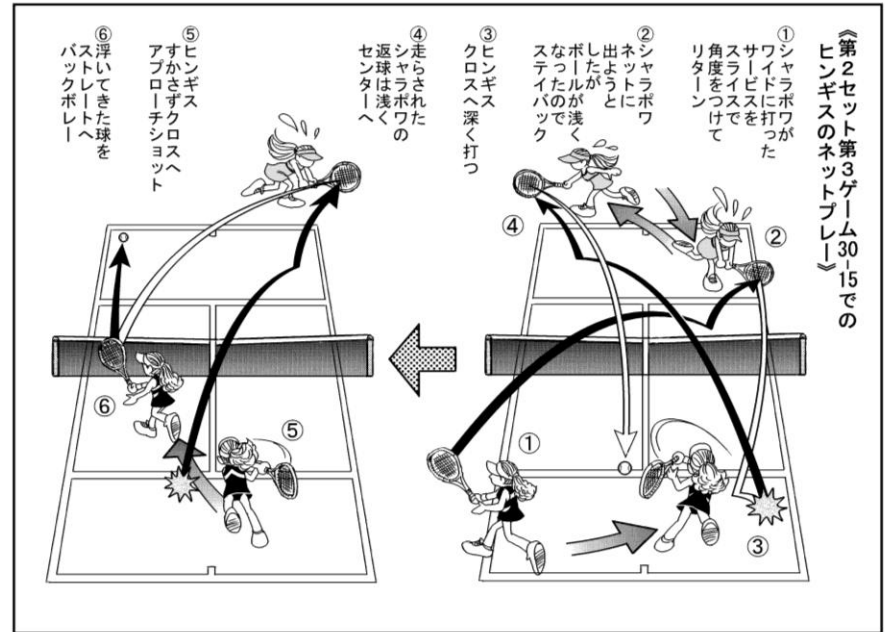
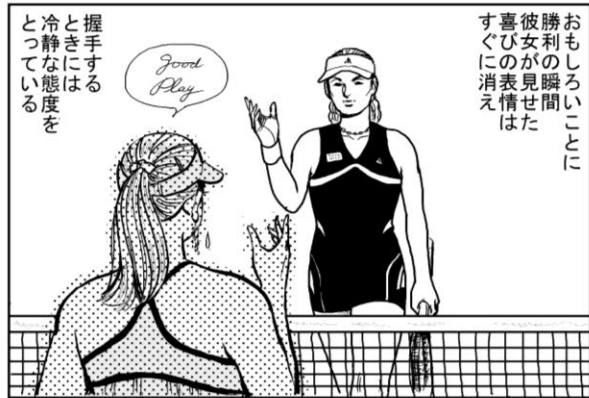
2度続けての  
ネットプレーなど  
ほとんど前後左右へ  
展開して攻めていく



第9ゲーム目には  
センターへのサーブ  
フェース2本などで  
フォアハンドセットを  
6-3で奪う



そして...



おもしろいことに  
勝利の瞬間  
彼女が見せた  
喜びの表情は  
すぐに消え

このセットもヒンギスは  
一方的に押し切り  
新女王対決は  
6-3 6-1  
意外な大差で決着がついた

握手する  
ときには  
冷静な態度を  
とっている

ここに  
元女王の  
垣間見えた  
気が  
する

ココロ  
パカ

ほかの  
プレイヤーが  
相手ならば  
第2セットは  
もつとガムシヤラに  
立ち向かって  
いたのでは  
ないだろうか

シヤラボウは  
ラランクのある  
ヒンギスには  
負けられない  
という気が  
悪い方向に  
出たと思わ  
れる

「こんな  
はずでは  
ないのに」  
表情で  
……  
じつと  
手をつ  
み  
見つめ  
る  
マリア

スタンドの  
お父さんも  
現実を受け  
入れ難い  
様子……

ヒンギスの猛ラッシュに  
シヤラボウは  
ブレイク  
ポイントすら  
与えられない

でもその  
しぐさが  
もえ  
ねのよ  
ナメラ  
ゴキ  
ソレチャ  
タヨコ

いしかわの **スパイクと解決** こゝろ

迷い道くねくね~

自分のプレーに迷ったときはどんなふうにか克服していけばよいですか？

そんなときははみずから奮立たせる

ルティンを持っていますよ

マリア様は第一セット6ゲーム目でチャンスポールがあつたのに躊躇したりして

迷いがあつたように見えましたが…

よし！

ルティンの意味がわからない

Routine = 日常の仕事、日課、慣例

フンフンなるほどなるほど

シヤラポワならー中のあーの声でテンションを上げていくとね！

自分ヘッドラッシュアイデア

えー何事もホドホドにしませう

これは言葉でも動作でもかまいません

一般プレーヤーであればお尻を叩いたり

よし！

頭を叩いたりして自分でいい信号を送りましょう

トシヤツ

自分が有利な状況のときだけでなくシヤラポワのフラット系のボールに

少々食い込まれても全部深く返していた…それに加えて

ヒンギスの勝因はまずボールが深かつたこと

ブランクを感ぜさせない緩急を使ったシヤラポワの封じ込めていた



彼女の貪欲な探求心にあつたのである

「天才」の試合巧者と「言われる秘密」は

…ヒンギスは実によく熱心な観戦している

自分がプレーしているときよりもほかの選手の試合を見るほうが観戦的によく学ぶことができる

丸山薫コーチは言う

奥が深い…

うーむ

もち疲れたんだ

だって

デめ戦てて決シろハいめ勝王タめネろ